

# 乾側小、下庄小に編入

## 方針決める 来年4月目標

### 大野市教委

大野市教委は30日、校舎の耐震構造に問題がある乾側小について、2021年4月を目標に同市下庄小に編入する方針を決めた。近く学校、保護者、地域住民らでつくる先行再編準備委員会を立ち上げ諸課題を協議、円滑な移行を目指す。編入により乾側小は廃校となる。

(高谷優菜)

この日開かれた同市総合教育会議で方針案を示した後、教育委員会で決定した。

市教委は、1月下旬から乾側小児童や未就学児の保護者、住民を対象にアンケート

トや説明会を実施。この方針について保護者や地元の合意が得られたと判断した。編入に伴い、乾側小校区の8行政区を全て陽明中の通学区域に変更、全児童が原則、陽明中に通うことになる。今後、約2キロ離れた下庄小へのスクールバス運行、乾側公民館での放課後子ども教室の運営、閉校事業を検討する。

乾側小は児童数12人。下

庄小は293人。総合教育会議では、乾側小児童の教育環境が大きく変化するため、児童と保護者の不安解消や心のケアに配慮する必要がある、などの意見が出た。市は早ければ9月定例会市会に関連予算を提案する見込み。

乾側小をめぐっては、校舎が国の耐震基準を満たし

ておらず、雪の重みで校舎倒壊の危険性が指摘されていた。市教委は昨年10月、現校舎の一部を取り壊し、軽量鉄骨の代替新校舎建設計画を住民らに提示。市は12月定例会市会に事業費を盛り込んだ一般会計補正予算を提案した。しかし、地元合意が得られていないとして、市会は関連事業費を削

除した補正予算修正案を可決していた。児童は昨年12月からスクールバスで旧蔵生小校舎に通い授業を受けている。久保俊岳教育長は「地域のご理解を得られて非常にありがたい。地区から学校が消えるということを重く受け止め、丁寧に課題を進めていきたい」と話した。